

関常幸 議会報告

第21号
2011.1

発行責任者
南魚沼市議会議員 関 常幸
南魚沼市浦佐2015番地
TEL 025-777-2245



寒中お見舞い申し上げます！

2011年を、皆さんどのように迎えたでしょうか。私は昨年引き続き毘沙門堂で新年を迎えた。毘沙門堂は、二年参りで大変混雑していましたが、毘沙門天を正面に内陣に座ると、凜とした雰囲気、外の雑音は耳に入りません。毘沙門天に祈り瞑想すること40分あまり、三つのことをお願いした。

一つは、日本国の安全と安定と繁栄です。二つ目は、62,000人市民の福祉の向上です。三つ目は、地域経済の活性化、地域が元気を取り戻す事です。

民主党の歴史的な政権交代から1年4か月、政治がこのように混迷すると誰が予想したでしょうか……。内には長引く経済不況の中、少子高齢化と財政危機が進む。外には、日本周辺での北方四島、竹島、尖閣諸島そして、沖縄の基地問題と日本の存立を脅かす安全保障の問題。

このように内外ともに難問をかかえている状況の中で、党利党略の政治に走ることなく、国民のための政治を一日でも早く望む。今日の新潟日報に「公共事業が日本救う」の著者の、京都大学藤井教授は、不況からの脱出は公共事業を増やすことだと述べている。一日でも早い地域経済の立ち直りを政治に熱望する。

23年度魚沼基幹病院が着工する。昨年には財団の設立準備委員会が開催され、27年開院に向けていよいよ動き出した。確実に人口が増えますので、地元として、衣食住の対応はぬかりなく進めなくてはなりません。その他に、今泉博物館の道の駅、大原運動公園、ララ内設置が濃厚な図書館整備事業、そして、学区再編問題等々、南魚沼市も多くの難題を抱えている。

地域経済の活性化は待つだけでなく、自ら汗をかくことが大切だ。イベントには大小ありますが、平均「1イベント100万円の事業効果が出る」と言われている。新しい事業・イベントを10人が立ち上げれば一千万円、100人が起こせば新たに一億円の事業が創設される。今年は「うさぎ年」兔のように跳ねて、新しいイベントを仕掛け、地域に元気を取りもどそう。

皆さんと共に、いい汗を流しますので、今まで以上にご指導のほど宜しくお願いいたします。

12月定例議会

十二月七日から十七日まで定例議会が開催されました。

一般会計の補正額は九億五千万円で、総額三百二十五億の大型予算になりました。主な歳出は、塩沢小学校・六日町中学校校改修工事に四億八千万円、道路事業に一億七千万円、生活保護費に一億円、自立支援事業に六千万円、そして、職員などの給与引き下げが一億円です。

今議会に八件の請願が市民団体などからありましたが、採択は「容器包装リサイクル法」と「TPP交渉参加に反対」の二件でした。私は、TPP提出の紹介議員になっておりましたので、全議員一致の採択にホッとします。共産党議員団などが紹介議員になった「所得税法56条の廃止、消費税の増税に反対し消費税の減税、米価の大暴落に歯止めを、高齢者の年金引き上げ、後期高齢者医療の廃止、最低保障年金制度」六件は不採択となりました。

十三、十四、十五日の一般質問には、二十一名の議員が登壇し、市長と市政執行に対して議論する。

4名が市民目線から見た財政問題を取り上げた。魚野川の水問題は私の他に、もう1名の方が取り上げた。

一般質問(9月14日)

●魚野川の水利権について

清津川からの水を前提として、戦後の21年から30年代にかけて、六日町地域に74.2%の田んぼが造成され、塩沢地域でも昭和40年代に、41.8%の新田開発が行なわれている。

大正11年に湯沢発電所稼働以来、約90年に渡って、清津川の水を取込んだ魚野川は、清津川の水無くして「魚野川」とは言えない。

魚野川は米作りだけでなく、鮎、鮭の漁業・釣り等の観光資源として、そして生活用水として、また、魚野川の岸べは市民の癒し・くつろぎの場である。そういう南魚沼市民にとって命でもある「魚野川」に対し、平成14年、当時の中里村が東京電力に水利権の放棄を要請した。**清津川の水は清津川に返せと……。**

現在、約90年にわたり湯沢町三俣地区の清津川の取水口から6.121立方メートルを取水し、湯沢発電所で発電後の水を魚野川に放流しており、もしそんな道理がとおれば、**作付け面積の半分は米は作れない**ばかりか、南魚沼市の基盤、生活そのものが犯され、南魚沼市の経済が破綻する。

南魚沼は南魚沼の水で米を作ればいいなんて言うことは、今までの経緯や歴史からいっても、納得できないし、そんなことが許されて良いはずはありません。

平成16年に魚野川流域7町が中里村に対抗して協議会を設立し、水争いは本格化し今日を迎えている。

その間井口市長は、関係機関と協議しながら一歩も譲りませんでした。この水争い解決のために、昨年11月10日に、新潟県・十日町市・南魚沼市、三者による協定書が交わされたが、各市

や魚野川流域にとっては、更にハードルの高い「水確保策」のようであるが見解をうかがう。

<市長答弁>

魚野川の河川環境、そして、下流の旧7市町村の生活環境、農業用水に絶対支障が起きないように進めていく。

清津川に分水する場合でも、抜本的な解決策(ダムやため池等)が出来るまでは、清津川への増量は無い。

●井口市政を問う

新市の市長として、市長2期目の折り返しに入った。2期目は、1期で築き上げた基礎の上に柱を立て、屋根を掛けなければならないと、6つの政策15の具体策をかかげ選挙戦を戦い、当選を果たした。

保健医療福祉、教育文化、都市基盤整備、産業振興、環境共生、行財政改革の6本の柱は、力強く、バランス良く62,000人の市民の生活のために6本の柱は立っている。

前回の選挙で対立候補は、「10億円の野球場はいらない」この事を全面に打ち出し戦ったが、市民は井口市長を選択した。

62,000人の首長です。市政全般に精通し県や国への人脈はもとより、哲学をもち、実行と決断を兼ね備えていなくてはと、井口市政の2年間を振り返り思った。

市長2期目の後半は屋根を掛ける2年間だ。どのような屋根を掛けるのか市長に伺う。

<市長答弁>

2年間で6本の柱は豪雪にも風雪にも耐えるように建っており、6本の柱を更に太く強くすることが、屋根まで葺き上げることだと思っている。まだ道半ばですので、これからの2年間で姿として見えるように邁進していく。

レ
ポ
ジ
ク
ス

11/27 西五十沢小学校閉校式



11/29 斉藤県議現地巡回



12/19 「海外研修会やまと」
米国農業研修報告会



12月議会概要(7日~17日)

★市長所信表明



- 1月から1歳未満児にヒブワクチン、および小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種の実施。
- 城内、大巻、五十沢の3中学校区と第1上田小、第2上田小学区の学区再編に係る集落懇談会、85集落全て終る。
- 南魚沼市地球温暖化対策実行計画が4回の委員会を得て策定される。
- 猛暑による1等米比率は11月末で53.8%と悪く、品質低下についての究明が待たれる。
- 今泉博物館敷地内に観光交流拠点施設は23年度中に施設整備を完了する。
- 観光の活性化を図るため「南魚沼市女子力観光プロモーションチーム」が11/10に発足する。
- 降雪期を迎え、万全な体制で安全・安心・快適な冬期交通確保に務める。

★野球場建設

大原運動公園整備にかかる基本計画・基本設計調査は10月14日から作業着手し、資料がそろったら議会に諮り方針を決定する。

★図書館整備

検討委員会の答申を受け、市長は今議会に六日町駅前「ララ」内に建設することを表明した。7千㎡中図書館は3千㎡の使用と思うが、テナントは何が残るのか、街づくり会社の財政は等々、ランドデザインが出来ていなく議論はこれからだ。

<第3回地域医療対策調査特別委員会(12月16日)>

開会の市長挨拶で、泉田知事は「大和病院への思い入れが強いので、現在大和病院が担っている部分はしっかりと連携していくし、地元のみなさんが今までより、使い勝手が悪いと言うことは絶対はない」と再度言明する。そして、魚沼基幹病院全体像の知事発表は、正月明けにはあると話す……。

地域医療再編、地域医療魚沼学校、医師確保、北里学院との関係、職員対応、周辺土地利用計画、医科歯科大学の誘致、市立2病院の経営等々多くの質問意見がでる。

平成12年に「小出病院の老朽化と改築問題」に端を発し、平山知事の3選目の公約として「県内どこでも30分以内で高度救命救急医療を受けられる体制をつくる」との表明から10年、いよいよその事が実現に向けて動き出す。魚沼地域にとっては一日でも早い開院が待たれる。一人でも多くの命が助かるためにも…。

8月25日には、魚沼基幹病院(仮称)財団設立準備委員会が開かれており、平成27年開院、平成23年着工に向けて、準備は着々と進んでいるのだが……!!

1/8 押合大祭委員、
勸募委員合同会議



1/12 浦佐「招魂祭」
発起人会議



1/14 大和商工会
賀詞交換会



●葉月みなみ歌謡ショー

かわら版(ミニ情報)

★ まちづくり先進地視察(12月9日)

参加者は22名、午前視察の阿賀町(旧津川町)に向かう。狐の嫁入り屋敷、トンボという雁木通りを見学し、まちづくりの仕掛け人「矢部さん」から話しを聞く。

午後は、660床の新潟市民病院、周辺のまちづくりについて学ぶ。魚沼基幹病院周辺のまちづくりに大変参考になった。景観、土地利用……、そして、組織作りと急がなくてはならない。

矢部さん講話



★ 浦佐スキー場安全祈願祭

& スキー学校創立50年感謝の会(12月23日)

牛木社長は、スキー学校50年を契機に、地元の皆さんのスキー場として、新たな一歩を踏み出すと挨拶する。井口市長、若井議長とも、日本一の浦佐スキー学校を称え、地元と共に歩み、地元で愛されるスキー場にと挨拶をする。映写、抽選会があり楽しんだ。

市の職員より講話



牛木社長、スキー学校のスタッフ紹介



★ 2011年元旦水行(1月1日)

二年参りの参拝客も帰り、寝静まった毘沙門堂境内に、午前2:30浦佐多聞青年団山口団長以下最高幹部による、新年の水行が執行される。



オンベイシラマンダヤソワカと3回唱える

毘沙門堂大手門前にて「豊年踊り」を、毘沙門天に奉納し水行が終る。

★ 浦佐地区賽の神まつり(1月10日)

和久井宮司による神事の後に火入れ。好評であった「豚汁・甘酒・綿あめ」。賽の神祭りは、悪霊・疫病を追い払う祭りです。そして、無病も。



我が家の「宝」を紹介します。親父の兄弟が47年前に発行した「つくしんぼ」(家族文集)が、今年の1月で100号になった。私も「つくしんぼ」を見て育ち、つくしんぼから育ててもらった……。人間一人では、生きられない……。

編集後記

1年間放送予定です。応援下さい……!

<FM雪国「おらが毘沙門様」1月より放送>

- 5分間のコーナーを毎週3回放送
- 毎週 水曜日 朝 7時53分から
- 木曜日 夕 16時52分から
- 土曜日 昼 12時30分から

- ①1月上旬 新年の挨拶 樺沢賢正副住職
- ②1月下旬 押合い大祭について 委員長 関常幸
- ③2月上旬 大祭を迎えて 多聞青年団山口団長
- ④2月下旬 大祭を迎えて 多聞青年団最高幹部
- ⑤3月上旬 3月3日当日収録 FM雪国滝沢さん
- ⑥3月下旬 山門と谷文兆 普光寺総代 坂西謙司氏

※ 番組内容は変更する場合があります。